

# 25 journal

society&business Tokyo25 journal  
執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com



日本航空高校石川などが移転する明星大青梅校。現在は工事車両以外は正門で通行止めとなっている

## 日本航空高校石川 生徒・学生1000人 仮寄宿舎整備 4月から明星大青梅校に避難的移転

日本航空高校石川と日本航空大学校石川(石川県輪島市)の避難的移転先が、「街プレ」2月8日号既報の通り、4月から青梅市の明星大学青梅校になった。同高と大学校を運営する日本航空学園(山梨県甲斐市)と、明星学苑(日野市)が3月3日発表した。当初の計画では、能登キャンパスの被災を受けて、系列校のある山梨キャンパスに仮設校舎や寄宿舎を整備し、4月から生徒、学生を受け入れるものだった。青梅校は広さ80坪。青梅市の誘致で1992年に開設されたが、陸上競技場、野球場を備える。ピーク時には2000人を超える学生がいたが、2015年に日野校にキャンパスが集約され、空き状態が続いている。

大勢待利明氏が市長に当選。議会も理解を示してこなかったことから、結局棚上げになった。避難的移転は最大3年とされているが、その間に青梅校の活用法が決まらなければ、法的課題をクリアすることを前提に本格移転の話が進むと見られる。発表された吉田元一明星学苑理事長のコメントは次の通り。

「令和6年能登半島地震で被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のため日夜ご尽力されている方々に深く敬意を表します。」

この度、石川県輪島市に所在する日本航空高等学校石川、日本航空大学校石川が被災され、当該学校を設置している学校法人日本航空学園の理事長をはじめとした多くの教職員の方が明星大学の卒業

生であるということもあり、本学苑に支援の要請がありました。本学苑では、両校の被災状況、なによりも当該学校の生徒・学生の学習機会を確保することを優先しなければならぬと考え、本学苑が所有する青梅校(東京都青梅市)を無償供与する方向で、学校法人日本航空学園と合意しました」

## 梅郷の沿線開発 推進に意欲

梅にゆかりのある自治体が一堂に集まり、梅を生かした観光振興や産業の発展について議論する「第29回全国梅サミット」が3月1日、水戸市であった。同市や青梅市など計13市町が全国梅サミット協議会に加盟。年一回、持ち回りで首長会議を開いており、青梅市では2019年に開催されている。



梅サミットで梅の里の再生をPRした大勢待市長(前列左)

「青梅市は東京でありながら自然豊かなところで、青梅の地名の由来は平将門の梅伝説による。2009年に発生が確認されたウメ輪紋ウイルスで市内約5万本のうち、約3万6000本の梅樹が伐採となった。中でも観光名所である梅の公園の1700本は全伐採され、その後、1200本を植樹して、今年はいよいよ以前のような梅まつりが開催できるまでになった」と報告。「協議会には梅の防樹に関する国への要望書を連名で提出いただき、感謝している。東京アドベントリーラインで沿線の開発を進めていくので、青梅市に注目してほしい」と力強く呼びかけた。

## 多摩信用金庫「たまちっぷす」編集部が主催 「多摩地域あるある川柳」大募集

多摩地域メディアが協賛 地域愛が深まる作品を

あのだ摩地域が舞台!!  
多摩地域2024  
あるある川柳 大募集

応募期間 2024年 3月1日(金)~ 4月10日(水)

お題 多摩地域全体や多摩地域の各自治体についての「あるある」を川柳にしよう!!

出身は 八王子です  
おもうか違う 多摩地域

富士山が 綺麗に見える  
多摩産物  
村山の 愛だた和  
あいたた和  
愛だた和

多摩信用金庫(立川市、金井雅彦理事長)は、4月10日まで「多摩地域あるある川柳」を募集する。「多摩への地域愛が深まる作品を」と呼びかける。子育て世帯を主に多摩の地域情報などを紹介する同信金のウェブマガジン「たまちっぷす」編集部が企画を立

案。川柳の募集告知や賞品提供に協力するメディアを募り、街プレ西多摩版など14社が賛同した。同編集部はこれまで「中央線の各駅ごと

に気温が下がる」「雪が降ると八王子からテレビ中継」など「多摩地域あるある」を職員から集め、ウェブマガジン内で紹介してきた。作品はたまちっぷす(https://tama-tips.jp)から応募できる。入賞作品には、「多摩地域愛タダもれ賞」(SOLA NO HOTEL 宿泊招待券1名)、多摩地域メディア賞(多摩の逸品、14社ごとに1名)が贈られる。入賞作品の発表は5月上旬を予定している。

他の参加自治体からは、女子バスケットボール日本代表の高田真希選手との共同でオリジナル梅シロップや梅酒が誕生したこと、梅の収穫体験や農家との交流などを通じた「梅ツーリズム」に取り組んでいることなどが報告された。